

筋緊張低下 vs 筋力低下 | 鑑別チェックリスト (A4)

目的：ベッドサイド5分で「低緊張/筋力低下/混在・保留」を仮決定し、条件固定で追跡する

日付 _____ 患者ID/氏名 _____ 場面（急性期/回復期/訪問） _____

仮判定（チェック） 低緊張優位 筋力低下優位 混在 保留

1) まず安全確認（レッドフラッグ）

- 急性の片麻痺・失語など中枢神経徴候/急速進行/強い頭痛・頸部痛
- 嚥下・呼吸筋症状の急悪化（むせ増加/呼吸苦の増悪）
- けいれん・意識変容など重篤な全身症状（電解質異常・脱水を疑う）

2) 5分鑑別フロー（順番を固定）

- | | |
|---|--|
| 1. 観察（30-60秒）
抗重力保持、姿勢、萎縮/左右差、安静時の張り | 4. 随意（60-90秒）
MMT/HHD/握力：近位固定あり/なしで2回 |
| 2. 受動（60-90秒）
受動抵抗（速度条件）、ぶらつき、関節保護 | 5. 反復（30-60秒）
10回反復で出力低下（易疲労）の有無 |
| 3. 反射（30-60秒）
DTR、クローヌス、病的反射 | |

3) 低緊張 vs 筋力低下：早見

項目	低緊張（筋緊張低下）	筋力低下
受動抵抗	著明に低い/ぶらつく	多くは正常
腱反射（DTR）	低下～消失（小脳性は振り子様）	正常～低下（病態に依存）
近位固定で改善	出力が乗りやすい	最大値が上がりにくい
反復での変化	姿勢戦略が整うと改善しやすい	出力が落ちる（易疲労）

4) 根拠メモ（所見・条件）

混在/保留：再評価条件（姿勢・近位固定・回数）を固定して追う
